

事業群評価調書(平成30年度実施)

基本戦略名	5 次代を担う子どもを育む	事業群主管所属	事業群①②:教育庁義務教育課、事業群③:教育庁高校教育課
施策名	(5) グローバル化社会を生き抜く力を持った人材づくり	課(室)長名	事業群①②:木村 国広、事業群③:林田 和喜
事業群名	① 子どもたちが直接外国語に親しむ体験活動の推進	事業群関係課(室)	
	② 小・中・高を通じた外国語教育の充実		
	③ 高等学校における特色ある国際理解・外国語教育の推進		

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)	(取組項目)
<p>①我が国の言語や伝統・文化に対する理解を深めるとともに、外国語教育の充実により、外国語によるコミュニケーション能力の育成を進めます。</p> <p>②小学校低・中学年から英語に慣れ親しむ活動時間を設定したり、高学年に中学校の学習内容を関連づけたりするなど、小中の連続性を考慮した教育課程の編成・実施等、英語教育の充実に資する取組の普及・促進を図ります。</p> <p>③高等学校において、外国語指導助手(ALT)等の積極的な活用や外国語を学ぶ実践的な機会を提供することにより、生徒の国際理解を促進するとともに、外国語によるコミュニケーション能力を高めます。</p>	<p>i) 様々な体験活動、県独自教材の活用によるコミュニケーション能力の育成(事業群①②)</p> <p>ii) 指導力向上のため教員を海外の大学に派遣 (事業群②)</p> <p>iii) ネイティブスピーカー(ALT等)を活用した実践的なコミュニケーション活動を実施(事業群③)</p> <p>iv) 英語・中国語・韓国語を実践的に学ぶ語学研修等を実施(事業群③)</p>

事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	①中学校卒業時に英検3級程度以上の英語力を持つ生徒の割合		目標値①	/	35%	40%	45%	50%	60%	
		実績値②	31.3% (H26)	32.8%	38.8%	/	/	/	進捗状況	①②中学校卒業時において英検3級程度以上の英語力を持つ生徒の割合は38.8%と昨年度より6%向上し、平成29年度の目標は、概ね達成に近い状況であるが、英語教育の高度化に対応するため、県学力調査問題の内容を大きく見直したため、6割以上理解している中学生の割合については、24.5%にとどまった。イングリッシュキャンプでは、生徒が実際に英語を活用する場を設定し、H28、H29の2年間で参加した生徒約7,000名の95%が英語学習への興味・関心を高めている。県独自に開発した英単語・表現学習教材「RISE UP ENGLISH」を活用したスプリングコンテストにおいても参加生徒が約4,000名増え、中学生英語暗唱大会についても市町での予選会を開催する機運が高まっている。また、H28、H29年度の地区別研修会において、TOEIC IPテストを実施し、教員の英語力向上を図った。
		②/①	/	93%	97%	/	/	/	やや遅れ	
②県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合		目標値①	/	60%	65%	70%	70%以上を維持	70%以上を維持	70%以上を維持 (H32)	
		実績値②	51.9% (H27)	56.4%	24.5%	/	/	/	進捗状況	③定時制課程(夜間部)と通信制課程を除く、すべての県立高校で外国語指導助手を活用した授業を行った結果、主な成果指標である「外国語学習の意欲」や「外国への興味・関心」が高まったとの評価を生徒から得ており、目標を達成した。
		②/①	/	94%	37%	/	/	/	遅れ	
③外国語指導助手が参加する授業により外国語学習の意欲や外国への興味・関心が高まった生徒の割合		目標値①	/	90%以上を維持	90%以上を維持	90%以上を維持	90%以上を維持	90%以上を維持	90%以上を維持 (H32)	
		実績値②	90.7% (H24-26平均)	91%	91.8%	/	/	/	進捗状況	
		②/①	/	100%	100%	/	/	/	順調	

2. 29年度取組実績(H30新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 29年度事業の実施状況 (30年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				29年度事業の成果等	中核事業	
				H28実績	うち 一般財源	人件費 (参考)			指標	主な目標	H28目標	H28実績			達成率
				H29実績							H29目標	H29実績			
				H30計画							H30目標				
1	取組項目 i ながさキッズイングリッシュチャレンジ事業 義務教育課	H28-30	47,426	46,229	10,455	公立小中学校の児童生徒・教員	グローバル化に対応できる人材の育成に向け、新たな英語教育の実現を目指すとともに、小中学生の英語コミュニケーション力の向上を図った。 H29年度は、4市町55校、3,630名の生徒が参加した。	活動指標			英語コミュニケーション体験活動事業への参加人数(人)	3,600	3,566	99%	
			46,762	45,771	10,460				3,600	3,630		100%			
			49,531	48,331	10,395				3,600						
									35	32.8		93%			
2	取組項目 ii 外国語教育強化推進事業 高校教育課	(H29終了) H25-29	6,446	6,446	4,021	高校教員	県立高校の英語教員1名を(独)教職員支援機構が実施する「英語教育海外派遣研修」に派遣し、指導力を向上させるとともに、研修成果を県内の高校へ普及を行った。	活動指標	英語教員海外研修事業派遣者数(人)	3	3	100%	(独)教職員支援機構の「英語教育海外派遣研修」の事業縮小に伴い、本県からの派遣者は1名となったが、研修修了者が行った公開研究授業において、参観者全員が「参考になった」と答えるなど、県全体の高校教員の指導力向上に寄与している。	○	
			1,426	1,426	3,218					2	1	50%			
										100	100	100%			
										100	100	100%			
3	取組項目 iii 外国語指導助手招致費 高校教育課	S62-	239,881	239,881	2,413	高校生	定時制課程(夜間部)と通信制課程を除く、すべての県立高校にALTを配置した。	活動指標	県立学校(定・通信制を除く)において、外国語指導助手が参加する授業実施率(%)	100	100	100%	生徒のコミュニケーション能力の向上、英語学習のモチベーションの向上、地域での国際理解の促進に寄与している。	○	
			233,198	233,198	1,609					100	100	100%			
			242,187	242,187	1,599					100					
										90	91	101%			
4	取組項目 iv 長崎から世界へ！高校生グローバルチャレンジ 高校教育課	H27-31	23,541	13,263	7,238	高校生	英語・中国語・韓国語の語学研修、企業訪問研修の実施、生徒の国際的素養を高める学校の取組への支援を行うことによりグローバル人材の育成を図った。	活動指標	国指定のスーパーグローバルハイスクール事業に係る「課題研究」の実施時数(時間)	90	109	121%	長崎県グローバルハイスクール支援事業の対象校において、将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合は71%であったが、国の指定を受ける際に設定した目標値(70%)を上回っている。	○	
			19,656	10,101	5,632					120	142	118%			
			19,914	10,767	4,798					120					
										72.8	73	100%			
			76	71	93%										
			76												

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 様々な体験活動、県独自教材の活用によるコミュニケーション能力の育成(事業群①②)

・生徒の英語学習に対する興味・関心を高め、学習した英語を活用する場として、H28年度からの3か年計画で「イングリッシュキャンプ」事業を実施している。(H29年度は、4市町、55校、3,630名が参加) 参加した生徒の94.7%が、「英語をもっと勉強しようという気持ちが高まった」と回答し、参加校の7割の教員が授業における英語使用を増やし、授業改善にもつながっている。1年目に引き続き、2年目も一定の成果をあげることができ、H30年度までの継続事業として、内容の充実を図る。さらに、本事業をきっかけとして、県内の11市町において、独自の英会話体験活動の実施または実施予定とされるなど、事業の広がりを見せている。

・「RISE UP ENGLISH」を活用したスプリングコンテストは、H29年度19,094名が参加した。(H28年度は14,807名参加) 引き続き、登録者数、スプリングコンテストへの参加生徒数をさらに増やし、年間を通しての活用を促していく。

ii) 指導力向上のため教員を海外の大学に派遣 (事業群②)

県立高校教員1名をイギリスの大学に2ヶ月間派遣し実践的な少人数による研修を受講させ、修了後に各所属校で研修成果を活用した公開研究授業を実施した。参観者全員が「参考になった」と回答するなど英語教員の指導力向上に寄与している。今後、研修修了者を適正に配置するとともに、県教委が行う研修会等において有効に活用し、県全体の英語教育の充実につなげていく必要がある。

iii) ネイティブスピーカー(ALT等)を活用した実践的なコミュニケーション活動を実施(事業群③)

定時制課程(夜間部)と通信制課程を除く、すべての県立高校で外国語指導助手を活用し、コミュニケーション活動を中心とした授業を実施し、外国語学習に対する意欲や、外国に対する興味・関心が高まっている。今後、大学入試改革等でこれまで以上に「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語4技能の育成が求められるため、民間資格・検定試験を活用するなど生徒の英語による発信力をさらに高めていく必要がある。

iv) 英語・中国語・韓国語を実践的に学ぶ語学研修等を実施(事業群③)

英語・中国語・韓国語を学ぶ生徒への海外での語学研修の機会の提供や、長崎県グローバルハイスクール支援事業の対象校におけるグローバルな課題をテーマにした探究的な学習の支援を行っている。海外研修参加者の語学力が向上し、国のスーパーグローバルハイスクール事業に係る中間評価でAランク(上から2番目)の評価を得るなど実績を上げている。今後もこの取組を継続し、グローバル社会で活躍できる人材を育成し、さらなる成果の普及を進める必要がある。

4. 30年度見直し内容及び31年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	30年度事業の実施にあたり見直した内容 (H30の新たな取組は「H30新規」等と記載、見直しがない場合は「－」と記載)	31年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目 i	ながさきキッズイングリッシュチャレンジ事業	国が進める外国語教育の早期化・教科化・高度化に対応するため、小中高の一貫した英語教育の推進をテーマとした取組を展開していく。	－	児童生徒の体験的な英語学習の重要性を県内に広げるイングリッシュ・キャンプは着実に成果をあげているものの、大学入試改革に伴い、児童生徒の英語力の向上がこれまで以上に求められている。小中学校における外国語教育を充実させるためには、特に教員の指導力及び英語力の向上は喫緊の課題であり今後も、特に教員研修など継続的な取組が必要である。	終了
3	取組項目 iii	外国語指導助手招致費	外国語指導助手や英語教員に対する研修において、表現力を高める具体的な教授法等を習得させることに重点を置くなど内容の充実を図る。	－	生徒のコミュニケーション能力等の向上を図るため、今後も事業を継続していく必要がある。	現状維持
4	取組項目 iv	長崎から世界へ！高校生グローバルチャレンジ	県英語教育研究会が発行する広報誌等を活用し、成果を普及させる取組を充実させる。	⑨	英語、中国語・韓国語の海外語学研修、生徒の国際的素養を高める学校の取組への支援を継続して実施し、海外の学生との交流を充実させるなど、内容の充実を図る。	改善

注：「2. 29年度取組実績」に記載している事業のうち、H29年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点